



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字ニュースinとくしま

Vol.52 2025.12

日本赤十字社徳島県支部

徳島市庄町三丁目12番地1

TEL.088-631-6000 FAX.088-631-6100

<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokushima/>



●防災教材を活用して、地震が起きた際に教室の危険な場所を探して話し合う園児（鳴門教育大学附属幼稚園）

命を守る青少年赤十字の防災学習 「自分で考え行動する力」を育む！

近年、地震や豪雨など自然災害が全国各地で相次いでいます。いつ起きるかわからない災害。こうした中、先入観の少ない小さい時から防災について学び、身の回りの危険を察知する力を身につけることが、いざというときに行動できる力につながると考えられています。

日本赤十字社では、幼児向け防災教材としてNPO法人と共同開発した「ぼうさいましがいさがしきけんはっけん」を活用しています。この教材は、間違い探しを楽しみながら、災害時の危険（場所・行動）を学び、自分の身を守るために必要な知識や判断力を育むことを目的としています。

10月21日、赤十字の支援団体である徳島県赤十字有功会（長岡奨会長）が、青少年赤十字（JRC）に加盟している県内の幼稚園・認定こども園に本教材を贈呈しました。

鳴門教育大学附属幼稚園で行われた贈呈式には、年長児48名が参加。同有功会の川島周副会長から、代表園児2名に教材が手渡され、受け取った園児は「ありがとうございます」と元気にお礼を述べました。

贈呈式に続いて行われた防災セミナーでは、地震の様子を描いた絵を使い、間違った行動をしている子どもを探し出し、「上の棚から物が落ちてくるから危ない！」と、危険な理由まで考える子どもたち。先生から一方的に教わるのではなく、子どもたちが主体的に考える姿が見られました。

この防災教材を通じて、子どもたちが「自分の命は自分で守る」力を身につけ、いざというときに迷わず正しい行動ができることを願っています。

小・中・高校生向け青少年赤十字防災教育教材

『まもるいのち ひろめるぼうさい』

青少年赤十字防災教育教材『まもるいのち ひろめるぼうさい』は、文部科学省と気象庁の協力のもと日本赤十字社が作成した“授業ですぐに使える防災教材”で、県内の小・中・高等学校に配布しています。

この教材は、児童・生徒が主体的に取り組みながら、防災に関する知識と行動力を身につけることを目的としており、知識だけでなく、「思いやり」や「いのちの大切さ」を学び取る力も育

むことができます。

日本赤十字社徳島県支部では、小学生を対象とした青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの防災プログラムにおいて、本教材を活用して、避難時の持ち出し品について考えるワークショップを実施しました。

災害が発生してから必要最低限の持ち出し品を準備することの難しさや普段から準備しておくことの大切さを学びました。



●避難時の持ち出し品について考えるトレーニング・センター参加者

赤十字水上安全法 水の事故から尊い命を守るために

本格的な夏のレジャーシーズン前の6月25日～27日、徳島市B&G海洋センタープールで、赤十字水上安全法救助員養成講習を開催しました。

この講習会は、水の事故から人命を守るための泳ぎの基本や自己保全、万一事故が発生した場合の救助方法や応急手当の方法について学ぶことを目的として、一般の方を対象に毎年開催しています。

参加者は、水の事故防止に関する注意点や、救助を受ける人と救助者双方の安全を守るためのポイントを学び、溺者と救助者に分かれてレスキューチューブなどの浮き具を使った救助方法を身につけました。

また、7月11日には、藍住東小学校で服を着たまま溺れてしまった場合の対処法等を体験しながら学ぶ「着衣泳」講習を実施しました。服や靴を身に付けたまま、海や川などに落ちる事故は、全国的に多く発生しています。

講習では、6年生70人が実際に服を着たままプールに入り、水の中で体の力を抜いて浮かぶコツやペットボトルを使った救助法を学びました。



●レスキューチューブを使った救助の様子



●“もしも”に備え、浮き方を学ぶ児童(藍住東小学校)

この夏、県内でも水難事故が多発したことを受け、当支部では赤十字水上安全法指導員が事故防止のポイントや溺れた人を発見した際の救助方法等をテレビや新聞で紹介し、水難事故防止を広く呼びかけました。

赤十字救急法 記録的猛暑から尊い命を守るために

統計のある1898年以降で、最も暑かった今年の夏(気象庁発表)。連日猛暑日が続き、熱中症の危険性が非常に高まった夏となりました。

また、本年6月の労働安全衛生規則の改正により、職場における熱中症対策の強化が義務付けられるなど、これまで以上に対策の動きが広がっています。

こうした状況を踏まえ、当支部では熱中症の予防方法はもとより、万一熱中症になった場合の対応についての普及を図る救急法講習を県内各地で開催しました。

熱中症は、重篤な場合は死に至る危険性がありますが、水分補給をはじめ体を冷やしたり、暑さに体を前もって慣れさせる「暑熱順化」などの予防や対策を行うことにより、未然に防ぐことができます。

当支部では、熱中症の予防はもとより、突然の心停止者への心肺蘇生やAEDの使い方、けがの手当(止血・包帯・固定)等に関する救急法講習を地域や学校、企業等のご要望により随時実施しています。



●地域での熱中症に関する講習(美馬市)



●心肺蘇生やAEDの使い方を学ぶ児童(板野東小学校)

●講習会のご要望やお問い合わせは、日本赤十字社徳島県支部 事業推進課(TEL:088-631-6000)までご連絡ください。

災害時に「食」で地域を支える 地域赤十字奉仕団が県総合防災訓練で自衛隊と連携

10月24日、三好市池田町の吉野川運動公園を主会場とし、徳島県総合防災訓練が実施されました。

被災者支援の一環として、三好市地区赤十字奉仕団が自衛隊と連携した「食料供給訓練」を実施。奉仕団員が赤十字災害用炊き出し釜と災害用炊飯袋を使用してお飯を炊きあげ、自衛隊員が調理したカレーをかけて訓練参加者や来場者に振る舞いました。

今後も関係機関との連携を図りながら、



●災害用炊き出し釜を使用して100人分のご飯を炊く赤十字奉仕団員

災害時の食の支援体制の更なる強化に努めて参ります。

災害用移動炊飯器「専用鉄板」を県西部に追加配備

当支部では、災害時の長期避難生活における「食」の支援を目的として、赤十字災害用炊き出し釜を県内に217台配備しています。

令和5年度には、炊き出し釜への取り付けが可能な「専用鉄板」を県内全市町村に配備し、地域の防災訓練等で、焼きそばやホットケーキなど新たな料理の炊き出しに活用されています。

令和7年度からは、更なる支援体制の強化を図るため、「専用鉄板」の追加配備を開始。南海トラフ巨大地震による甚大な被害が想定されている沿岸部や孤立が想定される山間部に続き、中央構造線・活断層地震による被害が想定されている県西

部への配備を行いました。

災害時に心も体も温まる食事が提供できるよう、地域での炊き出し支援の要となる地域赤十字奉仕団と連携しながら支援体制の強化を図ります。



●専用鉄板追加配備式(9月11日 美馬市役所)

南海トラフ巨大地震に備え、連携体制を確認 日赤中国・四国9県支部合同災害救護訓練

11月8日・9日、日赤高知県支部主催の南海トラフ巨大地震を想定した救護訓練に医療救護班1チーム12名(医師3名、看護師5名、薬剤師1名、主事3名)が参加しました。

日赤高知県支部から活動指示を受け、1日目は避難所環境が異なる4か所の避難所を巡回。班長(医師)を中心に活動方針や役割分担の確認を終えた後、避難者の健康管理や巡回診療、段ボールベッド組立などの衛生環境改善活動を行い、後続

の救護班へ引継ぎました。

2日目は高知赤十字病院の支援に入り、本部運営や中等症の傷病者が集まる救護エリア等で活動。普段の業務とは違う医療機器や資材がある中で、高知赤十字病院のスタッフと連携を図りながら、それぞれの業務にあたりました。

南海トラフ巨大地震をはじめ、頻発化する豪雨災害等の自然災害に備え、今後も救護訓練や研修等を通して、救護体制の強化に努めて参ります。



●避難所支援活動の様子(上段2枚)と高知赤十字病院内での医療活動(下段2枚)





青少年赤十字国際交流事業を開催

JRCシンガポールメンバーと徳島メンバーが交流を深める

10月25日～29日、青少年赤十字（JRC）国際交流事業の一環として、シンガポールのJRCメンバー2名が徳島県支部を訪問しました。「Think globally, Act locally」をテーマに、気候変動や人道課題について、県内のJRCメンバーとの交流を通じて理解を深めました。

10月26日、徳島県支部にて開催された学習会（Welcome Party）には、県内7校から24名の高校生JRCメンバーが参加。災害時の非常食づくり体験では、災害用炊飯袋を使った炊き出し訓練を実施。海外メンバーは初めての挑戦に戸惑いながらも、仲間と協力してお米を詰める姿が見られました。

高校生メンバーによるJRC活動や日本の文化紹介の後、シンガポールのJRC活動や文化についても紹介が行われ、活動内容の違いや共通点を通じて、互いの理解が深まりました。

最後には、日本文化体験として書道を紹介。筆を手に取り、それぞれが自由に文字を書きながら、笑顔があふれる楽しい交流の時間となりました。

10月28日、小松島市芝田小学校で行われた交流会では、全児童が元気いっぱい歓迎ダンスを披露。海外メンバーは、心のこもったおもてなしにとても感動してい

る様子でした。特別講義では、シンガポールの多民族文化や食文化について紹介。「シンガポールで最も高い建物は？」という児童からの質問に、「65階建てで約290メートルの建物が最も高い」と答えると、児童たちは驚きの声を上げていました。

その後の英語を使った交流会では、ジェスチャーを交えながら楽しくコミュニケーションを取り、言葉だけでなく心で通じ合う時間となりました。

10月29日、鳴門教育大学附属中学校で行われた「気候変動」をテーマにした授業に海外メンバーが参加。まず、気候変動に対する日本の取り組みを学んだ後、シンガポールの現状と対策について紹介しました。

赤道近くに位置するシンガポールでは、一年を通して高温多湿の気候が続き、



●高校生メンバーと一緒に非常食作りに挑戦する海外メンバー



●シンガポールにおける赤十字活動について紹介



●ジェスチャーを交えながら英語でコミュニケーションをとる児童たち（芝田小学校）



●気候変動について意見交換するグループワークの様子（鳴門教育大学附属中学校）

地球温暖化による海面上昇などの影響も深刻です。授業では、気候変動への対応として「緩和（原因を減らす）」と「適応（影響に備える）」の両方が重要であることを学び、地球規模の課題への理解を深める機

会となりました。今回の交流を通して、参加者たちはお互いの文化や考え方に触れながら、青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」の心を育むことができました。



大阪・関西万博が開幕 ～万博を通じて人道の輪を世界へ！～

10月13日、大阪・夢洲を舞台に開かれた大阪・関西万博が開幕しました。

今回の万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界各国から多様なアイデアや技術が集結。赤十字は国際機関の枠組みで「国際赤十字・赤新月運動館」を出展し、184日間で31万人が来館しました。

展示では「平和な日常の大切さ」をテーマに、戦争や災害の現場で赤十字・赤新月社が果たしてきた役割を紹介。日本をはじめ世界で発生している災害や人道危機について映像で紹介し、来場者に「いま」の人道危機を伝え、平和な未来の実現に向けてのメッセージを発信しました。

来館した人からは「当たり前の毎日を大切にしたい」「自分にでもできることがあると気づいた」といった声が寄せられました。

パビリオンコンセプト「わたしの“できる”は、誰かのためになる」。万博を通じて、赤十字が掲げる「人道」の輪を世界へ広げ、誰かのために行動を起こすきっかけづくりの場となりました。

徳島赤十字ひのみね医療療育センターからのレポート

災害時に電源確保が可能な福祉車両を整備

競輪・オートレースの売上金の一部で、社会的課題の解決に取り組む活動を支援している公益財団法人JKA様の補助を受け、セカンドシートリフトアップ装備の福祉車両を整備しました。

車両には電源も搭載されているため、医療的ケアを必要とする利用者のための電源確保手段としても活用でき、災害時はもとより防災訓練や災害対応デイクャンプでの活用も期待されています。

今回整備した車両は、障害のある利用者の芸術活動や外出行事などの社会参加を支援するための移送手段として、徳島赤十字ひのみね医療療育センターで活用します。



●ミニバンの2列目シートが回転して、乗降をサポート



●車両搭載の電源を使い、医療機器の動作を確認

奉仕団活動を紹介します

青年赤十字奉仕団が子ども食堂で炊き出しを実施

9月24日、徳島市国府町の「ふらっとKOKUFU」で開催された子ども食堂にて、青年赤十字奉仕団が炊き出しを行い、来場者に温かい食事を提供しました。

青年赤十字奉仕団は、社会人や学生などで組織され、地域や社会のために幅広いボランティア活動を行っており、災害に備え、平時から炊き出し訓練なども行っています。

今回の炊き出しでは、赤十字災害用炊き出し釜を活用してお米を炊き、その後、専用の鉄板で焼きそばを調理しました。

調理には子ども食堂に訪れた子どもたちも参加し、大きな釜や鉄板に驚きながらも、協力して楽しく調理を体験。たくさん焼きそばが出来上がる様子に、子どもたちは興味津々でした。



●子ども食堂を訪れた子どもたちと焼きそばを作る様子

出来上がった食事は、子ども食堂を訪れた多くの方々に振る舞われ、笑顔あふれるひとときとなりました。参加した青年赤十字奉仕団のメンバーからは「子どもたちと一緒に活動することができてよかった」という声が聞かれ、食を通じて人と人をつなぐ貴重な機会となりました。

●若い力を結集して、一緒に活動しませんか？

青年赤十字奉仕団では、一緒に活動する仲間を募集しています。入団希望やお問い合わせは、当支部 事業推進課（TEL：088-631-6000）までご連絡ください。詳細は、右の二次元コードから当支部ホームページをご覧ください。



あなたの思いを未来につなぐ

赤十字に託す遺贈・相続寄付

亡くなられたあとの財産や故人の遺産を社会のために役立ててほしいといった尊い意志に応えるために、遺言による寄付（遺贈）や相続財産の寄付を承っております。

遺贈・相続寄付
サポート窓口

日本赤十字社徳島県支部 総務課
(TEL:088-631-6000)



※日本赤十字社へのご寄付には、相続税がかかりません。



人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社 スローガン

スポーツと献血の力で命をつなぐ

B3リーグ開幕戦。スポーツ観戦と献血で広がる笑顔の輪

9月27日、アスティとくしまで開催された徳島ガンバロウズのホーム開幕戦に、初めての試みとして献血バスを配車しました。この日は、2025-26シーズンのB3リーグ開幕日。試合開始を心待ちにする多くのファンで、会場周辺は開場前から熱気に包まれ、長蛇の列ができるほどの盛況でした。

今回の献血活動では、専門学校徳島穴吹カレッジの学生が広報ポスターを

制作。さらに、徳島文理大学の学生がボランティアスタッフとして参加し、ポスターを手に献血の呼びかけを実施しました。

また、徳島ガンバロウズ様のご協力により、献血にご協力いただいた方には選手直筆サイン入り色紙をプレゼント。「推しの選手が当たりました!」という喜びの声も多く寄せられ、初めての取り組みにもかかわらず、56名の方に



●献血の呼びかけを行う徳島文理大学の学生ボランティア

献血にご協力いただきました。

試合は徳島ガンバロウズが初戦を白星で飾り、スポーツ観戦の高揚感とともに、献血を通じて笑顔と社会貢献が広がる、特別なイベントとなりました。



●専門学校徳島穴吹カレッジの学生が制作した広報ポスター

献血は

ラブラッドアプリを ご利用ください

アプリやカードをお持ちでなくても

献血の受付は可能ですが、
次回以降、アプリによる献血のご予約・
受付にご協力いただけますと幸いです。
(献血カード・献血手帳の発行・更新は、
令和8年1月4日[日]で終了します。)

ラブラッドとは

ラブラッドは日本赤十字社と献血者をつなぐ、Web会員サービスです。

Webサイト・アプリ、どちらからでも献血の予約、事前の問診回答などが可能になりました。

献血会場での混雑の回避、滞在時間の短縮、接触機会の削減ができるので、
安心で安全、より手軽に献血協力ができます。

ラブラッドアプリは、
こちらからダウンロードください。



※ Apple および Apple ロゴは米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
※ App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
※ Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。



スマホが献血カードの
代わりになるっ

献血予約

Webサイト・アプリから献血予約が可能! 当日予約(3時間前) ※もできるので、お近くの献血会場を選択して、手軽に献血できます。
※献血会場によっては当日予約できない場合があります。



事前問診回答

これまで献血会場でしかできなかった問診回答がWebサイト・アプリからできるようになりました。



血液検査の確認

ご自身の献血記録をいつでも確認することができます。



会員特典

ご協力いただいた献血種類に応じて、献血ポイントがたまります。また献血予約することで予約ポイントも付与されます。それらはオリジナル記念品と交換が可能です。その他、イベントやキャンペーン情報のご案内や、便利な機能を多数備えています。



献血のご協力はコチラ

献血ルーム アミコ

●受付時間: 9:30~13:00

14:00~17:00

(成分献血は16:00まで)

※アミコ専門店街の開店前及び休館時は3Fシビックセンター広場入口か1F郵便局横入口をご利用ください。

●定休日: 毎月第1・3火曜日

※悪天候時及び年末年始には臨時休業させていただきます場合がありますので、お問い合わせください。

●住所: 徳島市元町1-24

アミコビル3F(JR徳島駅前)

●電話番号: 0120-688-950

●右の①~④の駐車場をご利用ください。

※献血に要した時間分のサービス券をご用意しております。



献血中もTV視聴



Free-WiFi あります



充実のフリードリンク

献血バス

●徳島県内を巡回中の献血バスで、
ご協力いただけます。

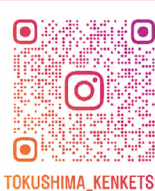
(400mL献血のみ)

●電話番号: 0120-688-994

●献血バスの日程は

徳島県赤十字血液センター

ホームページでご案内しています。



Instagram 始めました

献血の基準や献血スケジュール、
キャンペーン情報は
Instagramでも確認できます。

●日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します●

日本赤十字社徳島県支部事務局

徳島赤十字病院

徳島県赤十字血液センター

徳島市庄町三丁目12-1

小松島市小松島町字井利ノ口103番

徳島市庄町三丁目12-1

TEL.088-631-6000

TEL.0885-32-2555

TEL.088-631-3200

徳島赤十字ひのみね医療療育センター

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設

徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属乳児院

小松島市中田町字新開4-1 TEL.0885-32-0903

小松島市中田町字新開4-1 TEL.0885-32-0903

小松島市中田町字新開2-2 TEL.0885-32-0555